



人とふれあい、心豊かな人材を育む熊本YMCA学院の多彩なフィールドワーク



経済情勢の悪化を受け、就職を取り巻く環境が厳しさを増す現代にあっては、専門的な知識や技術の習得はもちろん、より主体的に考え、行動できる人材が求められています。

熊本YMCA学院は、工業・商業実務・社会福祉の3つの専門課程を持つ総合カレッジ(専門学校)です。「専門教育」「キャリア教育」「人間教育」を大きな柱とし、自分を愛し、また同じように他者を愛する心を育む教育に取り組んでいます。

各学科で行われる実習(フィールドワーク)では、専門性を深めながら人とのふれあいやコミュニケーションを通して、将来社会人として必要とされる資質を身につけています。また、福祉施設の訪問やボランティア活動への参加は、心豊かな人材の形成につながっています。今回は、国際ホテル科・老人ケア科・生涯スポーツ科の取り組みを紹介しながら、YMCA学院ならではの特色ある学外活動についてお伝えします。

ホスピタリティマインドを大切に

国際ホテル科では、1年時の夏休み期間に県内はもとより全国各地のホテル等で職場実習を行っています。

す。実習中とはいえ、利用されるお客様にとっては同じスタッフです。時には注意を受けて落ち込んで弱音を吐くこともありですが、社会の厳しさに直面しつつ、お客様からの「ありがたう」という言葉に励まされながら自信につなげていきます。

新学期を迎えると、学生たちの表情は、実習前より引き締まって見えます。現場での体験を通して、お客様に限らず、周囲へのホスピタリティマインド(相手を思いやる気持ち)が芽生えます。

実習先であるホテル側からは、実習で学生の適性や人間性を知ることができるといった意見を聞きます。実習先が就職先となる場合もあり、学生のキャリアへの第一歩としても、とても貴重な機会となっています。

自分で考え行動できる力を

老人ケア科では、2週間から1カ月の間、高齢者施設や障がい者施設での実習を実施します。教室の学習とは違い、接するのは高齢者や障がい者の方。相手の言葉が聞き取れないなど、コミュニケーションの難しさを感じるからスタートし、

徐々に相手の求めていることを理解していきます。また、夏にはほとんどの学生がYMCAのキャンプに参加します。はじめは緊張気味だった学生も、同じ時間を過ごし、子どもたちの別れを惜しむという場面がしばしば見られます。



し、進んで行動する力を身に付けていきます。

また、ウクレレ・コーラス・絵画のうち一つを選択する芸術活動もあります。ウクレレとコーラスのコースでは、年に数回福祉施設を訪問し演奏を行います。楽しみにしてくださる施設の方々のために一生懸命練習を重ね、当日は一緒に歌や音楽を楽しみます。演奏を終えた後の皆さんの表情や拍手、そしてふれあいを通じて、人と関わることが自分を成長させてくれることに気づかれます。芸術を学ぶことは、豊かな表現力と共に感受性の育成にもつながると考えています。

喜びを感じ責任感を身につける

生涯スポーツ科では、スポーツ関連施設での実習のほか、ボランティアリーダーとしてYMCA活動にも参加しています。ボランティア情報を得やすく、自主的に携わることができるのは、YMCA学院の特色の一つです。

学生は、水泳やサッカーなどの指導者として実際に子どもたちと関わり、子どもたちの成長を感じることから自分自身も喜びを実感します。また、夏にはほとんどの学生がYMCAのキャンプに参加します。はじめは緊張気味だった学生も、同じ時間を過ごし、子どもたちの別れを惜しむという場面がしばしば見られます。

全学科に共通することですが、立場の異なる様々な人たちと気持ちを通わせることができた時の感動や体験によって、より豊かな心が育まれていくようです。また、それぞれの役

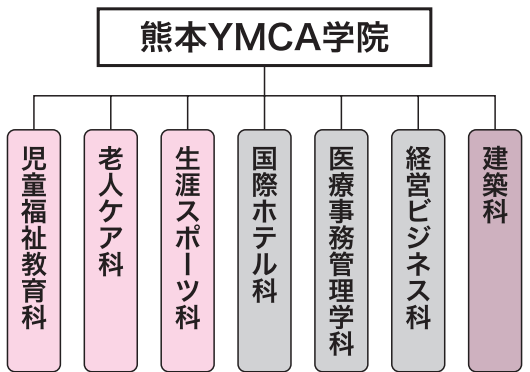


割を果たすことで責任感も生まれていきます。

社会に貢献できる人材として

実習先では、これまでにYMCA学院を巣立った多くの卒業生たちが先輩として活躍していることもありますが、卒業生からの指導やアドバイスを、学生たちの心強い支えになっています。

各学科で行われている多彩な学外活動は、実社会で役立つコミュニケーション能力を高めます。YMCA学院は、社会の未来を担うべく、心豊かな人間性を備え、社会人として活躍できる人材の育成を目指しています。



2010年度入学生募集中

わたしと聖句

ルカによる福音書第18章16節

子どもたちをわたしのところに来させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。

インマヌエル熊本キリスト教会
末弘 嘉孝

子どものように
自分を低くする者

「教会に来るのが大好き」という幼児、小学生たちが毎日曜の教会学校や礼拝に、親や祖父母と共に元気に出席しています。私も元気に声をかけて出迎え、触れるように心掛けています。

子どもたちを見てみると飾り気もなく無邪気に話し合い、熱心に聖書の話を聴き、好きなゲームに皆で夢中になって興じ、教会生活を楽しんでいきます。子どもから実に多くの事を教えられる。イエスに祝福を祈っていたら、親たちが子どもをイエスの許に連れて来た。ところが弟子たちは、その事は重要な事ではなく、イエスに時間と負担をかけるとして阻んだのです。その時イエスは弟子たちを叱り、語られた言葉が冒頭の聖句です。

今日の私たちもキリストのようになり、子どもを一人の人格者として愛し、受け入れる心を持ちたいものです。また、子どもたちが親に信頼し、自己を誇示せず謙虚で素直な心を持つように、私たちも幼子のような心をもって神を信じ、神の御国に生きる人にならせていただきたく願います。